

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200101		
法人名	セレンディップ株式会社		
事業所名	グループホームはなえみ		
所在地	岐阜県関市巾2丁目180番地		
自己評価作成日	令和7年1月16日	評価結果市町村受理日	令和7年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2190200101-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様やご家族様が笑顔でいられるよう、自分らしく安全で安心、健康な生活が継続出来るように、身体能力維持向上に努め望む事が出来るよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理学療法士である代表は、利用者が、自身の力と機能を継続・改善できるよう、必要最小限の介助で支援したいと考えている。職員は、常に優しい言葉かけで利用者に寄り添い、サポートを継続、歩行困難であった利用者が歩行可能となり、介護認定が下がった事例もあり、全職員の総力をあげた取り組みが結果として表れている。利用者が、自信をもって自立した生活を送れるよう、出来ることは見守りに徹し、自宅復帰に繋げるとの信念で支援している。今回の外部評価訪問調査についても、職員全員が自己評価(実践状況)の作成に参加し、振り返りを行いながら、次につながる支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様と職員が笑顔でいられるよう努力しています。利用者様の状態把握等に努めて情報を集積し分析しています。自身の力で動けるよう必要最小限の介助を行い身体機能の維持改善を常に念頭において支援させて頂いています。	運営理念を個人名刺の裏や、目につきやすい場所に掲示し、職員は日々確認している。必要最小限の介助を心がけ、利用者自身の力で機能維持・改善できるよう、個々の身体状況に合わせてながら、自立した生活を送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り地域の情報を回覧板を回して頂く事により知ることが出来ています。月一回は施設の外で活動する事を出来るだけ行い地域に触れ合うことに配慮しています。地域の避難訓練に参加しています。	自治会に加入し、毎月、公民館行事やいきいきサロン等の地域行事に参加している。地元の「シニア会」では、体操、楽器演奏、お茶を楽しむなど、地域住民との交流を大切にしている。また、住民から野菜などの差し入れ等もある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し民生委員や民生委員会会長、市役所職員、利用者家族代表などに参加していただき意見交換をしている。	運営推進会議には行政、民生委員、自治会長、家族が参加している。事業所の活動を写真入りで報告し、意見交換を行っている。火災訓練の報告では、参加者から助言を得ている。その他の防災訓練についても課題を挙げ、地域との協力体制、避難場所を確認している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	様々な疑問点などは高齢福祉課や包括支援センターに意見を伺いながら運営している。	市町村との協力関係は良好で、代表が窓口に出かけたり、地域包括支援センターとも連携を図り、情報を交換しながら、助言・指導を得ている。行政主催の会議には積極的に参加し、利用者サービスの向上に繋げている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をするほどの利用者様はご利用になっていませんが、施設内を徘徊などされる方は常に職員同士連携をとり利用者様の意向に沿った過ごしやすい環境作りを心掛けている。	身体拘束等適正化検討委員会を定期的開催し、拘束の弊害やヒヤリハット等の事例について話し合っている。議事録の内容は職員全体に周知し、参加できない場合は議事録の閲覧で確認している。居室にはセンサーを導入し、利用者の安全安心を確保している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴の際には身体確認等入浴担当者が毎回行い、異常など確認している。居室でのおむつ交換も扉を完全に閉じることなく行うようにしている。職員が怪我への注意を払うとともに虐待の抑止力になっている。	虐待防止委員会を定期的開催し、スピーチロックや認知症ケアについて学んでいる。代表は、虐待チェックシートを活用しながら職員の表情などを把握し、ストレスを抱えていないか、常に言葉かけしながら、コミュニケーションを図っている。	

岐阜県 グループホームはなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については職員それぞれが勉強できるよう資料やマニュアルなどを作成し配置しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分説明させていただきますが利用後に再度、要望や不満点はないか聞き取りを行うようにしています。入所直後1週間程度は生活の様子などこまめに連絡し疑問点や不安点など話し合うようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見を聞き施設運営に生かしています。会えない家族に対しては電話やメールなども駆使し意見をきき取るようにして施設運営に反映できるようにしています。	利用者の日常の生活、地域との交流、行事などの様子を写真入りで載せた「はなえみ通信」を毎月家族へ送付し、利用者が家族へ宛てた手紙も同封している。家族の訪問時には意見や要望を聞き、利用者に変化が見られた時には、LINEや電話で報告し、家族との連携を深めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に様々な職員に声かけを行うようにしています。実際に聞かれる情報は他の職員と一致しているか情報を集めるようにしています。	代表は日々、職員の表情や行動に留意し、意見や要望を聞きながら、それらを運営に反映させている。職員からは利用者第一に考えた様々な提案があり、明るく楽しい取り組みを全員で実践しながら、モチベーションを高めている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	処遇改善加算・ベースアップ加算を取得し職種により給与水準などを変化させているほか、それぞれの職員の能力をいかした行事など推奨しています。また、職員からの提案があった行事については、全て出来るよう配慮しています。	職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスに配慮し、働きやすい職場環境や就業条件整備に努めている。職員が、時事ネタ・クイズや替え歌を考案し、レクリエーションに活用したり、外国人職員が自国の料理を利用者と一緒で作るなど、個性を発揮できる環境にある。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望の講義を聞きたい場合は職員間で勤務交代ができるようにしています。	代表は、「介護保険法について」を皮切りに、職員が専門職としての知識を研修や学習会で学べるよう、研修機会と時間的な配慮をしながらサポートしている。研修内容は全職員に回覧などで周知し、更なるレベルアップに繋げている。	代表は、利用者の在宅復帰支援を目標に、職員が、日々、様々な研修や学習会等で研鑽に励めるよう学ぶ機会を作っている。今後も、目標達成に向けて、取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表は地域以外の他の施設の方とも直接交流をし意見交換をしています。 他施設が運営している認知症カフェやわーくショップなどに参加し情報交換をしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場において、職員が常に行うのではなく、利用者様とともに準備をしたり洗濯や掃除をしていただいています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様には意見や要望を聞き意向に合わせて自宅に帰宅したり外出したりしています。家族への電話・メール連絡なども行っています。	普段から利用者の思いや意向を聞き、寄り添う支援に努めている。意思表示が困難な人には、日常の様子や表情、生活歴から推測し、家族や職員からも情報を聞きながら、職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングばかりでなく、常に家族や本人に聞くようにしています。1カ月に1回のモニタリングをするようにしていますが、変化に応じて変更するようにしています。	月1回、ケア計画検討会議を開催し、本人・家族の思いや、職員、医師、看護師などの意見を検討しながら介護計画を作成している。ケアマネジャーは介護現場にも入って利用者の状態を把握し、介護計画について、家族等に説明している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には作成している。職員間で連絡が取れるよう連絡帳などを作成し、様々な事を記載し情報を共有できるように取り組んでいます。	手書きのノート等で申し送りを行い、情報の伝達ミスがないようにしている。職員は、利用者の様子や支援経過、気になる部分などを詳細に記録し、交代職員は必ずノートに目を通して業務に入っている。特に変更のある内容は、口頭でも伝え、共有している	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況やご家族の状況に合わせて外出や面会を行っています。急な自宅での宿泊にも対応しています。感染症については感染拡大防止対策などで協力いただいています。	緊急時には、協力医と訪問看護師と連携し適切に対応している。地域行事には、代表が積極的に参加しており、グループホームの役割りや機能について、理解と協力が得られている。利用者の一時帰宅希望にも、臨機応変に対応している。	

岐阜県 グループホームはなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のみのサービスにとどまることなくインフォーマルな資源も活用し支援させていただく事を心掛けています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時など素早い対応ができるように病院名と診察券のID番号や診療科、既往歴などをまとめた用紙に記入していただいています。直接主治医に相談し情報や注意事項、要望を伝える事もしています。	入居時に事業所の方針を説明し、家族が選択している。定期的な往診や訪問看護の際には、ケアマネジャーが事前に利用者の状態や要望を記載した一覧表を作成している。事前に医師・看護師へ情報提供することで、短時間で効率よい診断等が実施でき、利用者への負担軽減にもなっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院後に利用する場合などは、各病院の相談員や看護師など担当部署に出向き情報交換を行うようにしています。また退院後利用状況など現状を主にご家族に簡単に報告することもしています。病院にも都度連絡しています。	入退院時の窓口は、管理者とケアマネジャーが担当している。事前に利用者のかかりつけ医情報や既往歴などをまとめた一覧表を用意し、医療機関に提供するなど、利用者が安心して治療を受けられるよう支援している。退院後も不安のないよう対応している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたご家族との話し合いをするように、同意書など取るようにしています。生命危機の際は病院対応するようにしています。	契約時に、重度化や終末期の対応について、事業所で対応出来る範囲を説明している。利用者の状態変化時は、医師や看護師の意見を聞き、利用者や家族が最善の選択ができるよう情報を提供し、安心して医療機関や他施設に移行ができるよう支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡体制を整えています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には地域に開放するなど、行政からの依頼で引き受けています。また、施設においては玄関が開放でき避難しやすい環境になっています。また、歩行困難の方の場合は車椅子やベッドのままでも避難できるようにスロープも整備しています。	消防署協力の下、年2回避難訓練に取り組んでいる。今年度は夜間想定訓練を家族参加で実施し、運営推進会議で訓練の様子を報告、助言などを受けている。今後は地震・水害についても訓練を行い、地域の協力依頼も行なっていく予定としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉かけ、対応は十分に配慮して行うようにしています。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守り、思いやりのある声掛けや傾聴に努め、日々のケアに取り組んでいる。随所に、プライバシーに配慮した工夫がある。入浴介助は、職員2名体制で支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての事柄に対して常に対応前後の利用者様の反応を観察し利用者様の希望に沿うように支援させていただいています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の業務を最優先することなく、行事などは必ず利用者様に参加不参加など希望を確認し、行うようにしています。また、体調管理も行い体調なども参加不参加の相談材料とさせていただいています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養の関係もあるので食事が好きなもので偏らないように配慮しているが、アレルギーのある食材はもちろん提供しないように注意して配膳するようにしています。また嫌いな食材に関しては別のメニューにして出来るだけたくさん食べられるような配慮をしています。	栄養士指導の下、3食手作りの温かい食事を提供している。地域住民の差し入れ野菜や敷地内で収穫した野菜も活用し季節を感じられるよう工夫している。利用者から食べたい物を聞いたり、利用者と一緒におやつ作りを行い、食べる楽しみを増やしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については必ず摂取量などチェックしています。食事量など減った場合は、家族とも相談し食事状況把握に努めるようにしています。食材の加工も出来るだけ食べやすいように工夫しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うようにし支援をさせてもらっています。希望の方には歯科医に往診に来ていただくなど専門の方からの情報も頂くようにしています。	毎食後の歯磨きは、自分で出来る人は見守りで支援し、介助が必要な人には職員が手伝い、磨き残しがないか確認している。義歯は、毎日、洗浄・消毒を行い、治療が必要な場合は家族に連絡し、早期治療につなげている。	

岐阜県 グループホームはなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの失敗によることのショックがないよう、その人に合わせたトイレ誘導を行うようにしています。定期的な声掛けも実施しています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は施設の都合である程度が決められているが、入浴の順番や介助や援助の方法など出来るだけ本人の希望に沿うように配慮しています。入浴剤など入れてお風呂の感じを演出するとともに、どうしても拒否される方の場合は足浴や清拭なども実施するなど配慮しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝床が変わると寝られないという方などは、自宅で使用している枕を持って来て頂き出来るだけ寝やすい環境を作っています。日中の休息に関しても畳みベッドを取り入れるなど休みやすい環境を整えるよう努力しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・看護師などを中心に管理し職員が間違える事のないよう分かりやすく管理できるよう工夫している。薬剤の変更も常に情報を頂くようにし声かけを怠らないようにしています。	薬局の薬剤師から、利用者毎に薬がセットされた状態で届き、管理者、ケアマネジャーが指定の保管場所で管理している。薬は、朝・昼・夕・夜別に管理し誤薬防止をしている。服薬支援時には、利用者が確実に飲み終えたことを確認するなど、徹底させている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意なものや好きな事を行うようにしています。運動などが主流となり日々体を動かすことや楽に楽しめることなど工夫しています。	洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、畑の野菜作りなど、利用者個々の経験を活かせるよう支援している。残存機能を発揮し、役割を持ってもらうことで生活への張り合いにつなげている。作業後には必ず、職員から利用者の方に労いと感謝の言葉をかけている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や買い物などに外出するように計画しており季節ごとの行事が増えてきている。	天候や利用者の健康状態をみながら、事業所周辺の散歩を楽しんでいる。年間行事で季節のドライブを企画し、全員で出掛けている。職員の買い物に同行して出かける利用者もある。また、家族と共に食事や墓参りなどにも出かけている。	

岐阜県 グループホームはなえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていませんが、自身でほしいものなど買い物をするようにしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は利用者様の要望に応えるようにしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に適宜掃除をし清潔を保つようにしています。その他にも季節などが感じられるような置物や掲示物など配置しています。室温などにも気を配り調整するようにしています。	共用スペースは明るい日差しが入り、開放感がある。換気や温湿度調整が適切に行われている。居室も利用者が職員と共に清掃し、清潔を保っている。玄関やフロアの壁には、行事を楽しむ利用者の写真が沢山掲示してある。職員手作りのフロアの装飾も季節感が溢れている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室があり、本人に聞くなどして一人の時間が作れるよう配慮しています。希望者は自室にテレビを配置できるよう環境設定がなされています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊室には施設の寝具が常備してあるが、使い慣れた枕や生活用品など使用したい方は配慮しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の能力を維持向上する意味でも施設内は自宅に似たような環境作りに配慮している。全ての家庭で能力を発揮出来るような環境になるよう配慮をしています。		